

林檎の森

りんごのもり

12
2020
vol.461



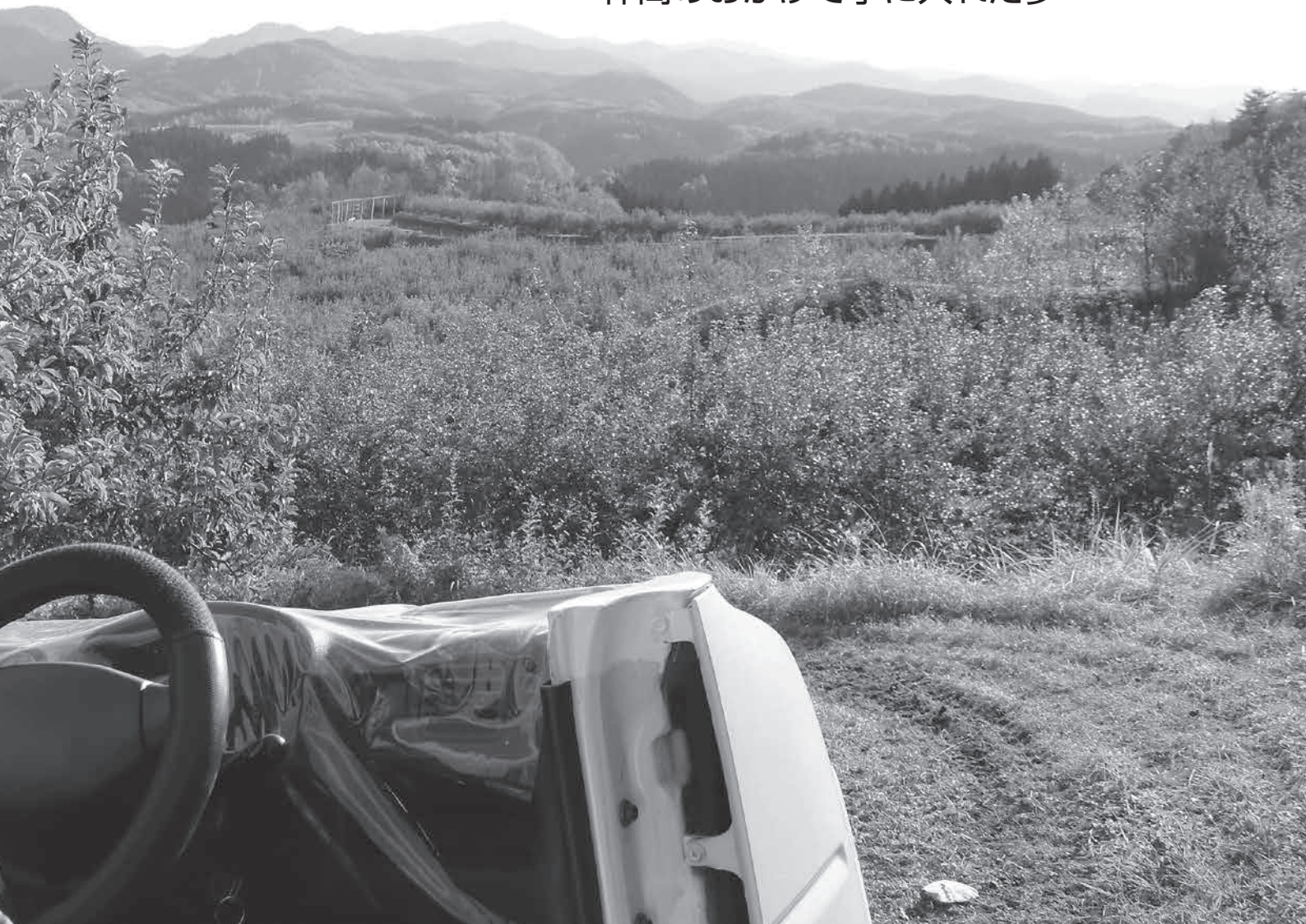
特集

MY DREAMS COME TRUE

～仲間のおかげで手に入れた夢～

MY DREAMS COME TRUE

～仲間のおかげで手に入れた夢～



紹介

名前 今 祐介

年齢 35歳

生まれ 藍内

略歴

旧相馬村立相馬小学校卒業

旧相馬村立相馬中学校卒業

H15年3月

青森県立柏木農業高等学校卒業

卒業

H15年4月

有限会社清野農園 入社

R1年12月

有限会社清野農園 退社

R2年1月 就農

今年、青年部員から新たな農業者が誕生した。「いつか



I HAVE A DREAM

今さんは、4年前に行われた青森県JA青年大会の「青年の主張」の部で「I HAVE A DREAM 私には夢がある。それはいつか自分の畑を持つて農業の道を歩むことだ。」と発表した。

今さんは今年、17年間務めた会社を辞め、自分の畑を持ち、夢を叶える為の一步を踏み出した。

今さんは柏木農業高校卒業後、建築関係で仕事をしようと思いつく就職活動をしていた。しかし、思うように就職の内定をもらうことが出来ずにいた。そこで高校の先生

に相談したところ、「有限会社清野農園」を紹介してもらい、「家も近いしいいか。」と思い就職した。当時、今さんは自分で農業高校を卒業していることから、仕事は余裕だと思っていた。

しかし現場では社長に剪定鋸の持ち方から、しまいには歩き方まで注意される始末であった。このような日々が続く、仕事に嫌気がさしていた。

勤めて7年が経った冬に、社長から「このむつの樹を剪定してみろ。」と言われ、これまで社長の剪定を見てきたことを思い出しな

がら剪定した。そして社長に何度もやり直しと言われ続け、何が正しいのか分からずに剪定する社長の背中を見続けて勉強した。

その後は王林やジョナゴールドなどを切らせてもらい、自分の剪定したところに実が生り「りんご作りって奥が深いな。」「手間暇をかけると言つのはこういう事を言うんだな。」と思うようになり、「これから農業に対してどのような姿勢で取り組めばいいのか。」と感じたことの無い感情が湧き上がっていた。

それから今さんは、作業全般の

自分の畑を持ち農業の道を歩みたい。」という夢を持っていた今祐介さんである。

今さんは非農家であり、農地や機械などを一から準備する必要があった。しかし、周りにいる部員や地域の先輩方の力を借り、今年夢を叶えることが出来た。

今月号では今さんの夢を叶えるまでの取組と、仲間との関わり等を紹介していきたい。

主任として社長に様々な作業を任せてもらい、実すべり等の作業も任せてもらうようになった。

ある時社長から「おめ（お前）が実すべりしたところの樹、良い



仲間と農作業を楽しむ今さん

りんごばかり成ってる。」と言ってもらい、その時から今さんの心には沸々と自分の畑で自分で栽培していきたいと想い始めた。

それから今さんは独立のためにどのタイミングで退職し、就農しようか悩んでいた。

丁度そのころ、農業学校に通っていた同級生が就農の為に地元に戻ってきた。自分と同じ共通の仲間ができたことがとても嬉しく、仕事の話や農業に係る真面目な話をよくするようになった。

これまで友人と仕事の話をすることが無かった今さんは、「話を聞いてくれる仲間がいる事ってすごい助かる。」と孤独感から解放された気分になった。

支えてくれる仲間や身近な先輩

今さんは就職と同時に、地域の組織として初めて消防団に加入した。団員のほとんどが農家の先輩方であり、話す機会が何度かあった。

就農した同級生はすぐにJAの青年部に入部しており、地域の先輩方とも交流があったことから入部の誘いが何度かあった。当時、



様々な活動の場で仲間が増えた



ねぶた愛好会で出会った最高の仲間達

今さんは周りが農家で一人だけ農家ではないという事に、大きな壁を感じてずっと青年部への入部を濁して断り続けていた。

しかしある時、同級生に「一緒にねぶた愛好会にいかないか？」と誘われ、行ってみるとそこには地元を盛り上げようと活躍していた農家を始め、大工や会社員など異業種の方達の姿が目についた。

そこで、当時ねぶた愛好会会長で青年部長でもあった三上正人さんから「うちの青年部は勢いがあるし、みんなで地域を動かしていく事はすごく楽しい事だ。だから入らないか？」と誘われ、断る余地もなく青年部へ入部することとなった。

それからは育苗作業やもち米事業、県外研修など様々な行事に参加し、多くの人と出会うことが出来た。

顔は覚えていても、あまり面識のない同年代の人達と話す機会も増えた。同世代なのに美味しいりんごを作る為、自分の考えを持ちながら仕事をしている姿がとても刺激的であった。

青年部などの組織で集まると必

ず話題になるのはりんご作業の話であり、様々な考えで今さんが悩んでいる事を本音で話し合い、解決してもらうこともあった。

今さんにとって青年部は、仕事や近況などの話を共有し、これからの自分たちの将来の姿を語り合えるとても楽しい場である。これほどまで大切な存在が身近にあったことに気が付いた。

もしも、今頃青年部へ入部せずに様々な活動に参加していなければ、今の考え方とは別の人間になっていたと話す。青年部では人々との繋がる事の大切さを実感することが出来たと言った。

それと同時に、農家の後継者でもある部員らとの関わりの中で、農家を継いだ後の話などになると、今さんはどこか羨ましいと感じていた。

そこで勤めていた会社の社長に思いきって「いつか自分で畑をもつてリンゴを作って販売してみたい。」という事を相談したところ、社長からは「今のお前に何が出来る、もう少し現実を考えてから話にこい。」と厳しい言葉を掛けられ、悔しい思いでいっぱいであった。

確かに間違ったことは言うて無いのは分かってはいたが、今の自分では自立していくには力不足で程遠いと感じた。

しかしこの出来事が今さんの中で漠然としていた夢がこれから何をすべきなのか、どこまでやる覚悟があるのかと決心がついた瞬間であった。

背中を押してくれた大先輩

今さんが10年以上踏みとどまっていた想いに背中を押した大先輩が、水木在家地区の三上正人さんである。

今さんと三上さんの出会いは約13年前のねぶたでの集まりの時であった。当時今さんは20代前半でとても勢いがあつたと言つ。三上さんは「こんなに元気のあるやつが農業をやれば、もっと相馬を盛り上げていく事が出来るのではないか。」と感じていた。

ある時、三上さんは何度かあるねぶたの集まりの度に今さんに対して「いつして集まった時に、周りの農家と同じ目線で皆と話をしてほしい。」と感じるようになっていった。

それからというもの、三上さんの心の中には今さんには是非就農して欲しいと思うようになり、逢う度に「農家にならないか。」と話しを持ちかけるようになった。

そして、ある日三上さんは今さんに提案した。「いつになったら農家になるんだ。このままではやりたい事をやる前に歳を重ねてやれなくなってしまうぞ。今しかできないんだからやってみろよ。」と熱く語つたと言つ。その瞬間に今さんの決意は固まった。三上さんが今さんに農家になってほしい理由は若くて元気があるから、という理由だけではない。清野農園での得た技術を活かすことも出来、何よりも農業に対してのやる気がみなぎっていたことが一番の強みだと感じたからであった。

また、三上さんがここまで今さんに寄り添う理由は、三上さんの就農する前との共通点があつたらだと言つ。

三上さんが就農したのは30代前半と、今さんの就農した年齢に近い。前職は相馬村役場に勤務しており、農家やJAとの関わりが多々あつたと言つ。その中で農家の高

齢化や人手不足等の地域農業の課題を目の当たりにし、自分が元気に働けるうちに就農するべきだと思つたと言つ。今さんも就農前に青年部に入部し、農家やJAとの関わりの中で様々な事を吸収し、やる気を感じた事から、三上さんは自分の経験から早めの就農を勧めたと言つ。

後日、17年務めた清野農園に就農することを告げると、社長は「せっかくこれまで覚えてきたのに勿体ない。でも独立したいという事を聞いてからいつかこの日が来るとは思っていた。」と話していたと言つ。今さんは会社の作業全般を行っていた為、社長にとっても大事な人が巣立つて寂しそう

な様子であつたと言つ。
三上さんに背中を押してもらつた今さんは、その年に会社を辞めて就農することにした。

就農を決めた今さんは、早速知り合いの先輩農家に相談したところ、丁度借り手を探している1丁6反の畑があると云つ情報を知り、いきなりの大規模な広さの畑に今さんは少し抵抗を持った。その様子を察した先輩は「やってみればいいじゃないか。せっかく就農したいタイミングで借り手を探している良い畑があるんだから。あとは、前職でやってきたこともあるから、お前ならやれる。」と声をかけてもらい、その言葉に救われたと言つ。

三上 正人さん (50歳)
農家20年目
(三上さんの青年部時代の写真)



農家一年目を終えた今さんを見て、一からの就農でよくここまでやる事が出来たと感心していた。これから今さんには、経営をしっかりと学び、更に栽培面積を増やして大農家になって欲しいと話した。そして最終的には三上さんの後継ぎになって欲しいと笑顔で語っていた。

そして今さんのりんご作りが始まった。

アツと言う間の就農一年目

今さんは1月15日頃に剪定から始め、切り終わって見てみると、これまで教わってきた清野農園の社長と同じような仕立て方になっていることに気づき、改めて社長の存在の大きさを感じた。だが、これからは自分で栽培したい品種や方法で、剪定の仕方を変えていかなければだめだと感じたと言っ

また、就農して初めてつがるの葉取作業を行ったと言っ今さんは、「これは気が遠くなりそうだと思って始めたが、やってみるとそんなことはなく、光の入り方などを考えて作業するのが楽しかった。これから先も工夫して楽しくできるようにしたい。」と話していた。

就農と同時に気になっていた高密植栽培も、JAと挑戦することに決めた。今さんは何でもやってみなければ分らないという事から、この高密植栽培に限らずに、JAの薬剤試験なども一緒に取組んだ。前職ではほとんどのりんご栽培に係る作業を行ってきた為、大半

の作業は分かっていたと言っ

しかし、実際に自分で栽培してみても初めて分かったことはたくさんあった。

例えば薬剤の種類と効果などは初めて知ったと言っ。今までは準備されていた薬剤を散布していたので、薬剤名や効果などは理解していなかった。

同時に薬剤に係る金銭面に関して戸惑ったという。初めての経営で、自分はどれくらいの収入があり、どれほどの経費を見たらいいのか不安を感じながらも良いりんごを育てようと、栽培管理に妥協はしなかったと言っ。

また、反射シートを敷いて、剥いでの作業や施肥の仕方などが初めてであったと言っ。

そして初めての収穫作業のときには一から育てたリンゴが立派に育ったことに感激したと言っ。でも自分の作りたいりんごとは程遠く、これからもっとりんご栽培を追及していきたいと話した。

今さんはこの一年を終えてみると、気づいたら終わっていたと言っ。初めは何から始めて良いのか分からずに時間が過ぎるのが遅く

感じていたのだが、とにかく今行なわなければならない作業を一生懸命取り組んでいたら、気がつくのと収穫作業が終わり、後片付けを行っていたと言っ。

そして振り返ると、作業で何か困ったことがあればすぐに仲間に連絡して相談していたという。逆に仲間から連絡を沢山くれたこともあり本当に仲間に助けられて一年乗り越えたと痛感していた。でもこうして仲間と同じ仕事の悩みを共有することが楽しみでもあり、一番の勉強だと話す。



仲間たちと全力で遊ぶことも大切

頼れる相談相手

一番の相談相手

今さんがいつも困った時に相談するといっ5歳下の五所地区の三上裕民さん。青年部員であり同じ消防団にも所属している。

今さんは三上さんに何でも話すのは話を真剣に聞いてくれ、真剣に答えてくれるからと言っ。

今さんは全部が一からの就農であり、自分のような親の後継ぎという立場ではないことから尊敬していると三上さんは話した。

また、今さんには一からのスタートとなる新規就農者の先駆者となって欲しいと話していた。



三上 裕民さん（30歳）写真左

これからがスタート

自分の畑の作業が終わり、お世話になった先輩の畑に手伝いに行った。真っ赤で美味しそうなりんごを見て、自分もこうなりたい、こういうりんごを作りたいというような感情が湧いてきた。そして手伝いに来ていたのは今さんだけではなく、先輩や仲間たちもたくさん来ていた。その様子も見て、今さんは自分が思う仲間の大切さを改めて感じたと言った。

また、いつか自分の作ったりんごを、師匠でもある清野農園の社長に自信を持って見せられるように、初心を忘れず勉強していききたいと話した。

今さんの最終的な夢としては、仲間と一緒に清野農園のような会社を作り、農園を営んでいくことである。同時に、ブランドりんごとして自分が作ったりんごを多くの人に食べてもらえるようにこれからも様々なところで勉強し、多くの事を学んでいきたいと意気込んでいた。



初収穫したりんごの選果は思いも格別



高密植栽培にも挑戦

編集者の声

今さんは4年前に青森県青年大会にて自分の夢である「自分の畑を持ち自分のりんごを栽培することだ。」と盟友達の前で発表し、それが今となって現実になっていることに感銘を受け、今回取り上げさせてもらい、常に向上心を持ちながら農業に取り組んでいることを感じた。

今さんの常に思っている向上心が周りの人達にも伝わり、手を差し伸べてくれたのではないかなと思う。

また、インタビューの際に何度も仲間という言葉聞き、相馬の人たちの仲間意識の強さと、助け合いの精神の強さを感じた。青年部には今さんのように農家になる前から入部している部員が現在も在籍している。農家でなくても、農家になる為の準備として入部する方も随時募集しておりますので、まだ就農していない人でも是非入部して頂きたいと思います。

今回紹介した今さんをはじめ、将来の農業者の夢を今後も青年部などを通して全力でバックアップして参りたいと思います。

未来を担う若手農業者へ
JA相馬村 部員募集中!!



～40歳までの方なら誰でも歓迎

ライスロマンクラブの応援作業等の地域貢献活動や栽培技術研修会、他地域との交流会、健康診断による自己の心身を見つめ直す等の活動を行なっています。

心強い仲間がここにいる

問い合わせは **84-3215**

J A相馬村本所 小野 迄

11月10日、福岡大同青果株式会社と株式会社マルゴの担当者3名が今年産のふじや王林の品質を確認する為に来協し、生育や果実品質について説明を行った。

米澤松太農業振興課主任が色付きや品質、生育を説明した。

担当者らは「とても美味しそうで、消費者の購入意欲を促すような色付きですね。」と感想を述べ、米澤主任も「今年も品質の良いりんごに仕上がりましたので、より多くの人に食べてほしい。」と話していた。



肥大の良さに驚く(株)マルゴ社員

東京から移住してきて2年目となる、相馬地区地域協力隊の石田有希子さんが11月24日、弘前市役所にて都立大江戸高校定時制の生徒4名にりんご栽培の一年について授業を行った。

石田さんの友人の奈木いずみさんは都立大江戸高校で地理の教師をしており、生徒には東京の価値観だけで留まって欲しくないという思いから、是非石田さんから弘前に移住したことで得た経験を話してほしいということで授業が行われた。

石田さんは、体験した剪定作業から授粉作業、摘果作業、収穫作業などを説明した。

石田さんはこれらの作業を体験した中で、りんごは人作りであり、地域作りであることに気が付いた。リンゴ作業にはそれぞれ師匠という人が居て、師匠から技術などが受け継がれ人が作られていき、りんごに特化した産地としてその人たちが地域を盛り上げていく事に気が付き、生徒らに授業の

一番のポイントとして伝えた。

また、当管内の収穫量や取り扱い品種について写真と一緒に話をしていたところ、当JJAのコンテナ置き場の画像を見て、「コンテナが山積になってコストコのようなだ。」等と都会的な回答がでるなど、終始楽しい雰囲気包まれていた。

最後に生徒らは、「りんごを収穫するまでにこんなにも大変な作業があるのかという事を知り、これからりんごを口にするときは生産者が苦労して育てたと言いつ事を思い出します。」と話していた。

石田さんは「またこのような機会があれば実際の園地でオンライン授業を行い、生産者の声を生徒らに生の声を聞かせたい。」と語った。



生徒らが驚いたコンテナの量



スピーディーな津軽弁も披露した



画面を通してりんごの部位の説明をする石田さん

topics

相馬のりんごが
大好きです

03

11月14日～12月6日まで、湯口支所グリーンプラザ前にて毎年恒例のJA相馬村りんご祭が開催された。

相馬地区産のりんごを求めて多くの人が訪れて賑わいを見せていた。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、入場制限や検温、飛沫感染防止対策を講じながらの開催となった。

生産者がりんごを売場に並べていると、消費者の方から「どのりんごが美味しいですか。美味しいりんごを選ぶにはどのような見方をしたらいいですか。」等といった話をする場面も見られていた。

生産者は「消費者と会話して、本当に相馬のりんごが大好きで買っているんだと実感した。これからも美味しいりんごを作って消費者の方に喜んでもらいたい。」と話していた。



秋田からのお客様も満足して購入



入場の際には検温を実施

topics

手軽に
贈答りんごを配送

04

青年部初の取組として、クロネコヤマトの集荷受付をライスセンターにて行った。

この事業は青年部役員の溝江翼さんが、毎年贈答用のりんごを送るときに運賃を安くできないか模索して思いついたアイデアである。地域の方々も同じ悩みを抱えているのではないかと思ひ部員の有志を集め、夏頃からクロネコヤマト担当者の方と受付の仕方や、集荷時間、クレーム対応などについて話し合いを重ね、実現したものの。

溝江さんは、「予想以上に多くのお客様から反響があり、とてもやりがいを感じている。来年も地域の皆様に喜んでもらえるように取り組んでいきたい。」と意気込んでいた。

初年度の今年は受付件数が1000件を超え大盛況に終えた。



協力して荷下ろしなどの対応をする部員ら



地域の方との関りを大切に

青年部通信

事務局 小野 朋宣



11月27日、青年部員15名が保健センターにて健康診断を行った。

去年よりも参加者は一人少なかったが、去年の受診者が今年も受けている傾向があり、健康を維持していきたいという気持ちと、去年のデータと比較が出来るから受診したと話す部員が多かった。また、今年度入部した部員も受診し、「コロナ禍という事もあり、自分の健康状態を把握し、これからの生活で改善点を意識していきたい。」と話していた。

健診終了後、保健センターのご協力により「スマートミール」という1食の中で主食、主菜、副菜が揃った健康的な食事を意識した弁当を用意して頂いた。食べた部員らは味が薄い、量が少ないなどといった感想があったが、これが



健康的なヘルシー弁当



去年のデータと照らし合わせ話し合う部員ら

健康的な食事であることを理解していた。

来年も健診の受診者増加と健康意識の強化に部員らは意気込んだ。

昼食終了後、精米を終えたもち米の袋詰めをライスセンター倉庫にて行った。

去年よりも植付けが上手くいかなかったのだが、今年の収量は13俵と、去年よりも0.5俵多い結果となり部員らで喜びを共有した。

また、もち米購入予約件数も去年に比べ右肩上がりであり、地域の人達は「必要な数量を安く買えるので助かる。また来年もお願いしたい。」と笑顔で話していた。

作業終了後、柴田康平部長は「限られた栽培面積でより多くの収量を上げられるように意識してまた来年も取り組んでいきたい。そしてより多くの人に青年部のもち米を食べてほしい。」と来年のもち米作業に意欲を見せていた。



大口の予約分は紙袋で準備



二人一組で1.5キロ袋を作った

果実販売動向

販売課 田中 瑠偉



令和2年産りんご終了までJAフルーツステーションをご利用いただき有難うございます。

11月の果実動向は、一部を除き、数量増の高値基調で推移しました。ミカンについては早生種を中心に潤沢な入荷となる中、食味が良好であることから売場が拡大され堅調な販売となりました。

柿についても、富有柿中心の入荷から総体数量が少なく引き合いの強さから堅調な販売が続きました。やや遅れ気味のイチゴについては、入荷が始まりましたが少量にとどまっており限定的な販売となっています。

一方、野菜については、好天や気温上昇で全面安の展開となりました。

リンゴについては、各産地のサン

ふじが出揃い、増加傾向となりましたが、本県産早生ふじ系の残量があることから、まだ完全に売り場を切り替えられる状況とはなっておりず併売されています。終盤の早生ふじ・シナノスイートは安価な転送品や品質面からも下げ基調となるなか、サンふじの販売についても売り場は拡大されており、引き合いは鈍い状況となっています。

トキ・名月等の黄色系については他県産シナノゴールド・王林との競合から特に厳しい販売となっています。

当JAではトキ・早生ふじ系・シナノスイートまで販売終了し、サンふじを中心とした贈答需要がピークを迎え、輸出向け（台湾・香港・ベトナム・タイ・マレーシア・シンガポール他）も重ねて最盛期

を迎え、作業に追われています。今後、リンゴについては、全国的に潤沢な出回りが予想されるなか、春節の時期が遅いことから輸出との並行作業や労働力不足による出荷のずれ込み等、販売ロスや品質低下への影響が懸念されることから企画販売の充実、新型コナ禍により変化する販売・消費形態に対応した宣伝施策を講じながら安定的な売場確保に努めるとともに、産地情勢と国内外の多様化するニーズに柔軟に対応しながら有利販売に取り組めます。



全国からの注文に対応する職員

全農あおもりデータ・11/30現在

品 種	サンつがる	早生ふじ	きおう	ト キ	王林	サンジョナ	サンふじ	その他	合 計
単 価 (円)	2,852	2,731	3,000	2,037	3,061	2,855	3,073	2,886	2,733
前 年 比 (%)	111	95	112	84	96	97	93	103	101
数量 (箱/10kg)	974,851	835,744	172,216	314,646	6,253	6,037	32,468	294,395	2,636,610
前 年 比 (%)	104	112	115	146	25	13	33	87	104

直売所「林檎の森」

副リーダー 三上翔平



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただきありがとうございます。令和2年も残りわずかとなりました。皆様は良い一年になりましたでしょうか？

今年も林檎の森は皆様のご協力や力添えにより無事に年末を迎えることができました。

3月に新しくなったばかりの林檎の森に久しく来店されていなかったお客様や出荷者様もお越しただければ幸いです。

※令和2年度の最終営業日は、12月30日8時30分～4時までとなります。

りんご祭りではコロナウィルスのこともあり、売り上げや客足も少なくなるかもしれない不安もありましたが、今年も11月14日の初日から多くのお客様にご来店いただき、大変賑わっていました。

今年も多く生産者が、りんご作業が遅れているとことで初めは会員のりんごが少なく心配されましたが、11月中の連休に重ねて

贈答用、家庭用のりんごがたくさん出荷されました。

サンふじをはじめ王林、シナノゴールド、名月が主に出荷されていました。

お客様に満足のいくりんごを販売することが出来たと実感しています。出荷してくださった農家の方々には感謝申し上げます。来年度のりんご祭りの際も、何卒よろしくお願いいたします。

年末となり林檎の森では年越しと、お正月に向けてそばやうどん、鏡餅、もち米をそろえているので、是非お買い求めください。

最後に新年度の営業日は、1月4日からとなります。

営業時間は、9時～5時までとなります。会員の搬入は8時45分からです。

ご迷惑をおかけいたしますがご協力お願いいたします。

令和3年度もスタッフ一同頑張りますので皆様のご来店、出荷を心よりお待ちしております。

J A 青年部 もち米好評発売中!!

毎年たくさんのお客様にお買い上げいただきありがとうございます。

今年も農協青年部のもち米収穫も無事終わることが出来ました。

現在「林檎の森」にて販売致しております。

愛情たっぷり
込めました!

「1袋 一升入り!」

(1.5kg) **¥600**



地域おこし協力隊 活動記 Vol.67

こんにちは。協力隊の石田です。

十一月末、東京都立大江戸高等学校の教師を務める友人から依頼があり、選択科目の地歴の授業で「日本の職人技！ 青森のりんご作り」と題したお話をさせてもらいました。

今年の六月からりんご園地のお手伝いに伺っていて感じた、職人仕事であるりんご栽培の格好良さや、東京にいると想像することが難しい第一次産業について、学生さんに興味を持ってほしいという思いから、内容を考え発表をしました。

その様子を地元紙二紙と日本農業新聞に掲載していただきました。「飛馬りんご」「相馬地区」の認知度向上に、少しでも貢献できたのなら嬉しいです。

私のような新参者がりんごの話をするのもおかしい話ですが（笑）、相馬のみなさんに色々教えてもらいながら、これからも相馬地区の輝いているものをたくさん発信していきます！



3社
新聞掲載

- 令和2年12月2日
東奥日報
「りんご栽培は「職人技」」
「東京の高校生にオンライン授業」

- 令和2年11月26日
陸奥新報
「りんごの栽培をオンライン授業」
「農家の思い伝わった」
「摘花、摘果作業や便利な道具も」

- 令和2年12月2日
日本農業新聞
「画面通じ東京へりんごの授業」
「日本の職人技」と題し

(*) 相馬地区公式HP (<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/soma/>)



農協役員室で——ネズミ盗聴記

元農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。温度良好、ポカポカ。いつもの常連、放送局、オンベ、廻覧板などが居る。

放送局「このあいだ、青森へ行ったついでに図書館へ寄って、或る本を見たら、市町村の農業生産額の順位が載っていたよ。オラホの相馬村が、なんと第三位に——。平成十年現在。

	10アール当たり	農業生産
1位	南部町	17.8万 ^円
2	三戸町	14.9
3	相馬村	14.7
4	大鰐町	13.4
5	名川町	13.1
6	弘前市	12.9
7	百石町	12.7
8	岩木町	12.2
9	平賀町	11.6
10	福地村	11.6

一般畑作物の順位が東北町、木造町、十和田市、三沢市、六戸町、五戸町、下田町、八戸市、百石町、天間林村の順。

オンベ「この年、本県の農業生産所得が東北一位、西郡柏村の米の反収が六五七キロで、全国一位、五回目だと——」。

放送局「オラ方で、もっと宣伝に力を入れるべきですよ。わかり易いモンクで——」

廻覧板「たとえば？」

オンベ「景色は十和田湖、マグロは大間、シジミ貝は十三湖、ナンバは清水森、キミは獄、りんごは相馬の飛馬などと——」

油売り「そのときは清水森や獄などからも力ネを出させるべきですな」

オンベ「いや、よその知名度を利用するもんだよ」

放送局「ところで、菅首相：風彩が上がらないな——」

オンベ「苦勞人、努力家ではあるが、大器ではないな——。田中角栄と育ちが似ているけれども、器量が違ふよ。スガ様は豊臣秀吉に少し似ているな—— 徳川家康と違ふよ。」

放送局「スガ。学者達を嫌って、アレは高くつくよ……」

油売り「ガラの悪いアメリカのトランプも負けたか」

寛容
その人
悪いのでなく
知らぬのです
双馬
走馬
義信

編集部をつぶやき～編集後記～

いつも広報誌「林檎の森」で講読ありがとうございます。
 今月の今祐介さんの特集ですが、夢を叶えた人が身近にいると刺激を受けますね。
 そんな私は特に自分自身の夢という夢はなく羨ましい限りです。
 コロナウイルスにより様々なことに神経質になっていますが、その中でも最大限楽しむことを考えていきたいと思うこの頃です。
 早いもので今年も残りあとわずかですが体調には本当に気を付けて過ごして下さい。
 By tomoshi

理事会だより

11月20日（金）

- 1) 10月末残高試算表について
- 2) 組合員の脱退について
- 3) 2020ディスクロージャー誌の縦覧について
- 4) J A データ伝送サービス利用規定の制定について
- 5) 教育・マイカーローン特別推進運動の実施について
- 6) 貸付関係について
- 7) りんご販売関係について
- 8) 固定資産の取得について

21 20 18 17 14 12 10 8 7 6 4 1

【タテのカギ】

- 1 羽根突きに使う道具
すずりですります
- 2 止まらずに進むこと
重さを知りたいときに使います
テレビやエアコンに向けてボタンを押します
ご飯のこと。焼き——
いんいちがいち、いんにかに……
——付きのタイで成人を祝った
車が動きださないようにタイヤにかませます
同種の事例は枚挙に——がない
凍った場合は氷瀑（ばく）と呼ばれます
ひもの——が固くてほどけないよ

パズル？ 頭の体操

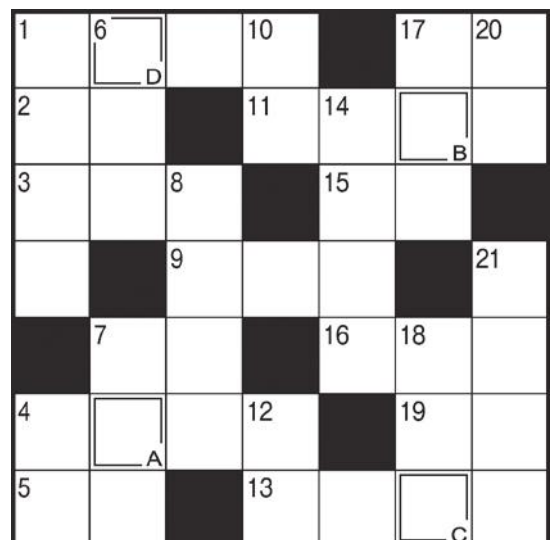
出題 ニトリ

Q 二重マスの文字をA～Dの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

19 17 16 15 13 11 9 7 5 4 3 2 1

【ヨコのカギ】

- 1 一富士二タカミナスビは、何に見ると縁起の良いもの？
- 2 キャンバスの大きさを表すときに使う言葉
港を表す地図記号はこの形
強烈な悪臭がする液をお尻から噴射して身を
守る動物
- 3 1／100はセンチ、1／1000は
なぜか猫が入りたがる物
大豆や緑豆の種子を暗い所で発芽させた物
物事をするのにちょうど良い頃合い
おせち料理に入れる煮豆
鶴は千年、——は万年
ご飯のこと。カレー——
ぬいぐるみに詰めます
ピーヒョロロと鳴く大きな鳥



答えは広報「林檎の森 1 月号」にて掲載いたします。

11月号の答え A:シ B:ユ C:ン D:ギ E:ク

表紙物語

今月の表紙は、相馬小学校三年生の児童が行ってきたリンゴ栽培授業を支えてきた女性部から児童らへ、最後にリンゴケーキなどが贈られた時の「コマである。

この贈呈は11月25日に行われ、大黒谷より子女性部長が児童ら一人一人にリンゴケーキのほかにリンゴケーキのレシピやりんごジュース等を「お疲れさまでした。」と声をかけながら手渡した。

大黒谷部長は児童ら全員に「りんごを作るのは大変だったけども楽しかったでしょう。お父さんお母さんがリンゴ農家の子供達も居ると思いますので、将来りんご作りするときには今回の授業を思い出してください。」と話した。

来年もこの授業は行われる予定であり、女性部もサポートで参加する予定である。



感謝の手紙を代表して読んだ福島心絆さん



りんご栽培学習を児童らと振り返る大黒谷部長



もらった贈り物に大喜びのポーズ



気持ちを込めて感謝を伝えながら受け取る児童

JA相馬村広報

林檎の森

2020.12 Vol.461

■発行者
相馬村農業協同組合
〒036-1593 青森県弘前市大字五所字野沢23-1
TEL.0172-84-3215 FAX.0172-84-3497

■編集
総務課広報
ホームページURL <http://www.ja-souma.or.jp/>
e-mail:soumuka@ja-souma.or.jp

■発行日
2020年12月15日

JA 相馬村概況

〈令和2年11月末日現在〉

組合員数…………… 871 人
(うち准組合員数 …… 374 人)

出 資 金…………… 620,880 千円

貯 金 額…………… 10,661,970 千円

共済保有高…………… 3,264,328 万円